

～三重に生まれ育つすべての子どもに途切れのない支援を～

# THE 市町支援通信



あすなろ学園市町支援グループでは、  
「途切れのない支援システム」の構築を協働支援します

三重県に生まれ育つすべての子どもの発達保障・子育て支援を目指し、あすなろ学園は多くの市町と協働しながら、以下の取り組みを進めています。

- ① 発達総合支援室（保健・福祉・教育等部局を一元化した室）又は機能の設置
- ② 「3歳児発達チェック」「5歳児発達チェック」の施行、「個別の指導計画」の作成、巡回指導による支援スキルの導入
- ③ みえ発達障がい支援システムアドバイザーの育成（あすなろ学園での1年間研修）



## 3年間を振り返って

あすなろ学園長 西田 寿美

あすなろ学園で市町支援事業が始まって3年がたちました。この事業は地域子育て支援のための人材育成を目的にしています。

地域での子育て支援にかかわる人たちから早期の適切な支援が受けられれば、母親の子育て不安は減少し、親子関係の悪化が予防できます。発達障がいをもった子どもたちにとって、家族以外の大人や子どもたちとのたくさんの出会いの場となる保育園や幼稚園、学校は、

苦手な対人関係や社会ルールを学ぶ貴重な育ちの場となります。

そういった子育ての現場に「目利き、腕利き」の子育て支援の専門家を増やすこと、地域子育て支援を見守る関係行政の連携体制作りへのお手伝い、があすなろ学園のめざす役割でした。

そのために「3歳児発達チェック」「5歳児発達チェック」を開発し現場の保育園や幼稚園で子どもたちを観察するポイントと具体的な支援の仕方を学んでいただきやすくなりました。その実践を地域行政機関とあすなろ学園スタッフで、年2回巡回指導し見守り、「個別の指導計画」の作成をお手伝いした園は全部で364箇所となりました。

地域子育て支援の専門家人材育成を目的としたあすなろ学園での1年間研修を終了した「みえ発達障がい支援システムアドバイザー」も21名となります。それぞれが1年間の研修終了時の報告会、ミニ学会での発表、地域での直接支援と、地域子育て支援の担い手として活躍されています。

あすなろ学園はこれからも、地域での子育て支援をサポートする県の専門機関としてお役に立てることを使命としていきます。

# 気になる子への子育て支援

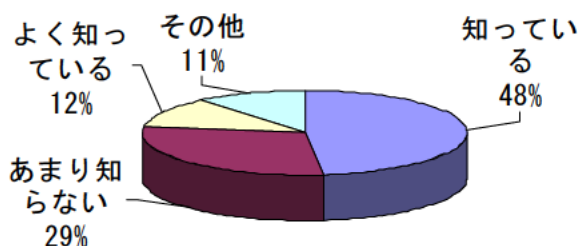
～みえ発達障がい支援セミナー/第3回特別支援教育フォーラムinみえ 開催～

平成22年2月7日(日)総合文化センター中ホールにて、三重県子ども局、三重県教育委員会、あすなる学園が共同開催しました。第一部では、厚生労働省の日詰専門官が国での取り組みをお話され、「全国のトップランナーである」との評価をいただきました。文部科学省の樋口調査官は、「三重県では幼児期から熱心に個別の指導計画に取り組んでいるんですね」と大変感心されました。第二部では、曾山和彦さん(名城大学)が講演され、日頃の子育てにも役立つような子どもに伝わる言葉かけの数々、具体的な支援の方法を教えてくださいました。

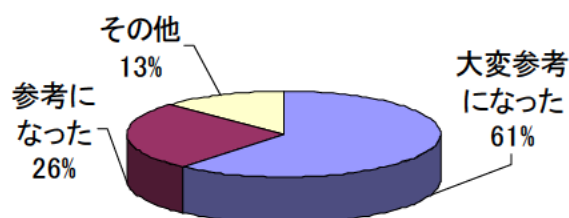
参加者からは「明日から早速、実践してみよう」「私の住む町にも途切れのない支援システムがほしい」「高校や就労支援までの途切れのない支援を願っている」「放課後や長期休みの支援の充実」「保護者同士が話せる場がほしい」等、多数の意見がありました。

<アンケート結果より>

## 三重県の取組について



## 基調講演の内容について



## 三重県の皆さんへ

～アイを込めてエールを～

名城大学 曾山和彦 准教授

2月7日は、「三重に生まれ育つすべての子どもに途切れのない支援を」という言葉が、参加者の心により強く刻まれた1日だったのではないかな…。私自身、900人の参加者の一人として共に考え、学びあう中で感じた思いです。

私は、これまでの子どもたちとの出会いを振り返り、「ソーシャルスキル(対人関係のコツ)」と「自尊感情」の二つが、子育て支援の鍵になると考えています。今、この二つを子どもたちに育むために、かかわる大人に求められること……。それは、子どもたちに伝わるように言葉をかけることではないでしょうか。家庭・保育・学校の中で、

「いいところ探し」、「アイメッセージ」等による言葉かけが十分になされる時、子どもという芽が大きく真っ直ぐに伸びていく。そして、その芽が伸びるための豊かな土壌を、三重県の進める早期からの途切れのない支援システムが創りあげていくことになるのでしょう。

いつでも、どこでも、三重県の子どもたち、保護者の方々、先生方を応援しています。





## 出会い・学び・新たな決意

～平成 21 年度研修者報告会 開催～

平成 22 年 3 月 8 日（月）あすなろ学園にて、今年度 1 年間取り組んできた研修について 7 名の研修者が報告を行いました。内容は、あすなろ学園内での実習や個人研究、巡回指導での学びなど、多岐にわたり、「みえ発達障がい支援システムアドバイザー」としての決意を新たにしました。

当日は、研修者の出身市町関係者だけでなく、今後アドバイザー研修を検討中の行政担当者 62 名の参加がありました。

なお、7 名の研修者は、今年度末には三重県より認定され、21 名のアドバイザーが当該市町に着任することになります。



### <アンケートなどの意見より>

- ・町全体で支援していくことの大切さを見直すことができた。力強い存在であると感じました。
- ・やはり、わが町もシステムづくりやアドバイザーの育成を・・・という思いがさらに強まりました。
- ・多くの市町が前向きに動き出している現実を知り、「焦りました！」の一言です。大きく遅れをとってしまって・・・と痛感し、「頑張ります！！」。
- ・現場の保育園、幼稚園、学校では支援の仕方がわからず、悪戦苦闘しています。アドバイザーの役割は大きい。来年度、研修者を派遣するので期待したい。
- ・子どもたちの成長を見守り支えるために、Plan-Do-See の繰り返しを気を引き締めて大切にしていきたい。

## 市町の取り組み紹介

～市町の先駆的な取り組みを紹介します～

### 亀山市

子ども総合支援室 岡アドバイザー

#### 子ども総合相談を軸にした地域支援

子ども総合支援室では、子ども総合相談（医療相談・療育手帳相談・心理発達相談・子どもの育ち相談）（9日/月）を実施しています。この相談体制の充実と専門性が「とぎれない支援」の軸になっています。室長（臨床心理士）を総合コーディネーターに、子どもにに応じて室員の保健師・保育士・指導主事が各々ケースを担当し保護者と協力し、子どもの所属の保育士教員等が子ども総合相談に同席し、専門的なアドバイスを園や学校・家庭に、より具体的に活かしていけるようサポートを行っています。

### 津市

こども総合支援室 嵐田アドバイザー

#### 健診からの途切れない支援のために

津市では、3 歳児健康診査で、集団遊びの場面を設定しています。その場にアドバイザーが出向き、様子を観察し、子どもさんの把握に努めています。健診では、全ての子どもさんが本来の力を発揮できるとは限りません。場面や場所が違うと、子どもさんが本来の姿と異なり、誤った理解をされることや、課題が見逃されてしまうことがあります。そのため、健診後に保育所や幼稚園での様子も見せてもらい、自然な子どもさんの姿を確認することもしています。全ての子どもさんを把握するには課題も多いのですが、健診を通して、保育所・幼稚園での様子と繋げて把握することは、支援室として子どもさんを「途切れなく支援」をしていく第一歩だと思っています。

# ☆ シリーズ Q&A ☆ part 4 ☆

Q

## トイレで排泄ができない

年中の Dくんはトイレに行くことや便器に座ることは嫌ではありませんが、一人で行くことができず、失敗が多くなってしまいます。どのように、トイレトレーニングに取り組んだらよいでしょうか？

A

## 成功体験ができるよう、定期的にトイレに誘いましょう。

排尿の間隔を観察し、記録しましょう。

- ・ 1時間おきにトイレに誘導したときと失敗したときの時間を記録して排尿時間を把握します。時間を決めて、トイレに誘いましょう。
  - ・ 園の一日のスケジュールに、トイレの時間を設定し、子どもに知らせます。
  - ・ クラス全体の流れに合わせて、みんなで行くのもよいでしょう。
- 失敗したあとでも、便器に誘導し、「トイレでする」という習慣をつけます。  
トイレでできたときには、大いに誉めましょう。

## 排尿のサインを伝えましょう。

トイレに誘導するときには、子どもの下腹部を軽くたたきながら、「おしっこ行きます」と声かけをする。

「ちゃんもおしっこしているよ」と友だちの姿をモデルに、声かけをする。

\* 詳しくは、書籍「気になる子ども過ごしやすい園生活のヒント」(学研)に掲載されています。

## \* \* \* \* \* 3年間のまとめ \* \* \* \* \*

発達総合支援室・機能の設置      既設置 7市町      準備中 8市町  
発達チェックリスト、個別の指導計画の導入(巡回指導)  
25市町364園880ケース  
みえ発達障がい支援システムアドバイザー      10市町21名  
(保育士11名、保健師4名、教師6名)

三重県の取り組みが注目を集め、以下のように県外との関わりもありました。

視察来園 11団体      講演依頼 6会場      早期発見・支援の手法(DVD)の問い合わせ 29自治体

“三重県に生まれ育つすべてのこどもに途切れのない支援を”目指して、来年度も市町支援グループは、「途切れのない支援システム」の構築を協働支援していきます。

2010年 3月 15日

<発行> 三重県立<sup>こども</sup>心療センター あすなる学園      広報担当: こどもの発達総合支援室 市町支援グループ  
〒514-0818 三重県津市城山1-12-3      TEL: 059-234-8700      FAX: 059-234-9361  
MAIL: asunaro@pref.mie.jp      URL: http://www.pref.mie.jp/ASUNARO/HP/